
神のおしおきゲーム

零香

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神のおしおきゲーム

【Nコード】

N9558Z

【作者名】

澪香

【あらすじ】

お父さんの仕事の事情で〇県に引っ越してきた少女 山田琴音と
天使 ミカエルがえかく ファンタジー物語です

第一話 天使 現れる!!!!

「ねえ神様つていると思う??」

「ええいるはずないじゃん!!」

そんな空想の世界の人物なんかいるはずない・・・そう思っていた

「たしかにでもいたら楽しそうじゃない琴音?」

そう言つて篠岡萌しのおかもえは私に質問してきた

「いたら楽しいかもね」

もちろん嘘だ・・・いてもいなくても人生なくも変わらないだろう

あと私の名前は山田琴音やまだことねだ

「そつだねえ楽しそう」

キンコーンカンコーン

そう言つていつもとあんまり変わらないファンタジックな話は終わった

帰り道

たしかに神様がいても別にいいと思うがいたとして地球上の大人数の人間の願いをどうやってきくのだろうか・・・

家

「ただいまー」

ソファにすわり机の上のチラシをよける・・・

「な・・・なにこれ!!!!!!」

私は突然、声をあげた

この家が売られているのだ

「お母さん・・・これ!!!!!!」

「ああ引つ越すから売ったの・・・あっ言ってなかったっけ。荷物まとれといてねー」

「ねえどうして引つ越すの?????」

「お父さんの仕事の事情よー」

う・・・嘘でしょ・・・何かのまちがい・・・そう思った

「ただいま」

お父さんが帰ってきた

「お父さん!どうして引つ越すの?」

「会社が倒産したんだ・・・だから前に住んでた〇県に引っ越すんだよ」

「と・・・倒産」

次の日

今日は金曜日・・・引っ越すのは土曜日と言っていたので今日は皆にお別れを言わなくちゃいけない

キンコーンカンコーン

結局、お別れができないまま引っ越すことになった

〇県

ここが新しい家・・・前にお父さんが住んでたから、ちょっと汚い・・・

月曜日

今日は新しい学校へ

「転校してきた山田琴音です。よろしくお願いします」

休み時間になると3人の女子が話しかけてきてくれた

「ねえ何処から引っ越してきたの？」

「どうして引っ越してきたの？」

「今度、遊ばない？いろいろ案内してあげる」

そんなことを言われ、放課後には友達といえるぐらいまで仲良くなった

次の日

私は一人で学校へ机にはシネなどひどい言葉ばかり

「な・・・誰がこんな事を・・・」

「私がやったの・・・いきなり転校してきて、それだけでもウザいのにすぐ皆になじんで、ウザいんだよねそういうの！！」

後ろから声がした振り向くとクラスの中心人物の杉本里奈すぎもとりなだった

「なんでこんな事するの？こんなのイジメだよ！！！」

「えっ？何て言ったの？聞こえなーいフフ私のお父さんはこの校長よ変に言つとどうなるかわかってるの」

なんて女だ・・・私はそう思った

休み時間

里奈のせいなのか話してくる人は誰もいなかった

家

こんなときに神様がいたら・・・そう思った

ピロリン メールの音だ

なんだろう・・・

宛て先 神

件名 契約

本文 神と契約し悪人をおしおきたいのなら

下の部にサインしてください

—

—

神と契約?? ホントだったら凄いことだ

私は遊び半分でPCで使ってるサインを書き送信した

そのときだった周りが白く光、気がつくや雲の上!?!にいた

「あわああ」

「どうしたのですか?」

そこには1人の少女

「お・・・おちるだろ・・・あれ・・・なんでおりない・・・」

「ここは時空の歪みでちよつと変なんですよ」

・・・意味不明だ説明が変なのかそれともココが変なのか分からない

「あなたは神と契約しました。契約条件として悪にならない事、善を突き通す事、天使である私と行動をとにもすることですが、よろしいですか？」

・・・さっぱり意味がわからんぞ

「ていうことは、お前は天使か？」

「はい！！！！ミカエルともうします」

なんてこつた神が本当にいるとは・・・

「分かった・・・契約する」

「はい！！分かりました」

そついうとミカエルはペコリとお辞儀をし、どこかへ走っていった

気がつくと自分の部屋にいた

第二話 木下みかん？現る

気がつくと自分の部屋にいた

次の日

里奈ははたして悪人に入るのだろうか・・・

キンコーンカンコーン

今日もいちだんと机に落書きが・・・先生は気づいてるのだが気づかないふりをしている

「きょ・・・今日は転校生がきています」

ドアが開きそこから出てきた人はどこからどうみてもミカエルだった。

あいつはいじめの対象になりやすそうだ

「えっと・・・その・・・木下ミカンです」

男子にはだいぶ評判があり、里奈は手を出しづらいらしい

みかん《ミカエル》とはなぜか隣の席だった

「あつ・・・琴音さん契約条件のためにここに転校してきました」

ペコリとみかんはお辞儀をし席に座った

「ウザッ」

ぼそりと聞こえた里奈の声・・・みかん・・・ドンマイ

休み時間

「あのお・・・もしかしてあそこにいるかたが悪人の対象ですか？」

「あっああ私からしたらただけだな・・・」

「たしかに気の強そうな感じでよく死ねとかウザイとか言ってますよねえ」

ていうかどうしてこんなことしてるんだ??

「じゃあさっそく神のおしおきを始めますか？」

「待て待て待て待て待て待て待て待て説明しろ・・・」

「あっしてませんでしたっけ・・・」

「昨日ちよつとあっただけと今はなしてただけだろ・・・」

「ああ忘れてましたアハハ・・・はつきりいつてやってみないとわからないですよ？」

みかんは笑顔で笑っていった・・・

「じゃあさっそくやりますね・・・神ロード・・・オープン」

みか・・・嫌・・・ミカエルはそいい手と手でパンと音を鳴らす

「あっあれはなんなんだ!??」

私は指を指す・・・そこには黒い物体があつた

「あれは悪のかたまりです。あれを消し善だけの世界にする、それが私達、天界の住人の計画です」

第三話 神のゲームの始まり！！

「あれは悪のかたまりです。あれを消し善だけの世界にする、それが私達、天界の住人の計画です」

計画・・・ねえ

「じゃあいきますよ・・・女神流第1機・神術の刀！！」

ああこれは非現実的な...

「琴音さん！これで悪のかたまりを斬ってください！！」

「斬るって・・・あれを！！」

「はい！！」

無茶を言っなこの天使は！！

「私に悪を斬れと・・・」

「あのお斬らないと里奈さんの善悪の悪が消えません！！最低限に斬らないと、いじめも終わりません！！」

なるほど・・・って死ぬ可能性もあるんじゃないかあ？？

「えっともしかして命がけ？？」

「あたりまえじゃないですか！！」

ミカエルは予想以上の笑顔で言った・・・ちよつと不気味に見えたしかたない・・・言い訳しても終わらないだろう・・・

私は、悪のかたまりに向かって走る・・・

「おりゃあああああああ!!」

ぐにゃ

突き刺した感触が気持ち悪い・・・

「おおさすがです!!」

さすが・・・って私は特に剣道とか習ってないし普通の人間だぞお

「あつ 琴音さん! 後ろ!!」

私は後ろを向くと悪のかたまりがもう目の前にいた

「キヤアアアアーーーー」

私が悲鳴をあげる

「女神流第3機・神の盾!」

目を開けてみるとなぜか生きている・・・周りには何か迷路のような不思議な模様の丸い物体の中に入っていた

「だ・・・大丈夫ですかあ??」

ミカエルだった

「ああ大丈夫だ・・・ってお前も戦えたのか!!」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9558z/>

神のおしおきゲーム

2011年12月31日20時54分発行